

神経研究所
(NIN)脳神経系発達の分子機構を解明し、
精神・神経疾患の病態を理解する病態生化学研究部
部長 星野 幹雄

National Institute of Neuroscience

高度な脳機能を司る複雑な神経ネットワークは、精巧な遺伝子プログラムの基に創り上げられますが、一方で、そのプログラムに齟齬が生じると、てんかん、発達障害、統合失調症などの様々な精神・神経疾患が惹起されるとも考えられています。このような問題意識から、病態生化学研究部では、脳神経系の発生・機能の遺伝子・分子メカニズムを解明すると共に、精神・神経疾患の病態メカニズムの解明を目指しています。特に最近では、疾患検体を用いたマルチオミックス・ビッグデータの収集や解析、遺伝子改変疾患モデル動物を用いた解析によって、神経ネットワーク形成の基本原則や、てんかん、発達障害、精神疾患などの

病態に関する研究成果を発表しています。最新の研究結果は、NHKの朝のニュースでも紹介されました。

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240211/k10014354781000.html>

睡眠休養感の欠如を改善し
疾病予防・寿命延伸睡眠・覚醒障害研究部
部長 栗山 健一精神保健研究所
(NIMH)

睡眠休養感の欠如 (Nonrestorative sleep; NRS) は、睡眠をとっても体が休まった感覚が得られないことを指し、様々な睡眠障害で生じる症状です。NRSは、高血圧やメタボリックシンドロームなどのリスクとなるばかりでなく、うつ病の発症や、寿命の短縮にも関わることが分かってきました。このため、NRSが続く場合、背景に睡眠障害が潜んでいないか確認する必要があります。

NRSは、運動不足や不規則な食生活などを改善し、快適な睡眠環境(寝室の暑さ・寒さ、騒音や照明など)を整え、飲酒やカフェイン摂取などの嗜好品を控えることにより改善する場合も多くあります。このため、睡眠衛生指導と

呼ばれる上記の改善指導は、NRSを訴えるあらゆる方に有用です。

本年2月に厚生労働省から発表された「健康づくりの睡眠ガイド2023」は、我々が中心となって取りまとめた国民の睡眠健康指針ですが、これには睡眠衛生指導の要点が凝縮されています。ぜひ、皆様の日常診療にもご活用ください。



National Institute of Mental Health

<https://www.ncnp.go.jp/>

NCNP 診療ニュース

精神診療部

精神科地域医療への
NCNP の役割2024.11
Vol.43

診療科紹介

精神診療部

各部門紹介

医療安全管理部
臨床研究・教育
研修部門

専門疾病センター紹介

薬物依存症
センター
気分障害
センター神経研究所
精神保健研究所

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
National Center of Neurology and Psychiatry

NCNP診療ニュース Vol.43 2024年11月発行
国立精神・神経医療研究センター病院
〒187-8551 東京都小平市小川東町4-1-1
Tel.042-341-2711(代表) <https://www.ncnp.go.jp/>

患者さん優先 無料シャトルバスの のりばのご案内



発着所



西武新宿線・拝島線 多摩湖線

Seibu Shinjuku Line, Haijima Line,
Tamako Line

萩山駅

“Hagiya” Station

南口・ロータリー前
In front of rotary at South Exit

萩山駅発	
8時	30
9時	00 45
10時	15 45
11時	15
12時	45
13時	15 45
14時	15 45
15時	15
16時	15



国立精神・神経医療研究 センター病院

National Center Hospital,
National Center of Neurology and Psychiatry

NCNP 病院

NCNP Hospital

ロータリー前

In front of rotary

病院発		
	新小平駅方面	萩山駅方面
9時	10 50	40
10時	20 50	10 40
11時	20	10
12時	50	40
13時	20 50	10 40
14時	20 50	10 40
15時	50	10
16時	20	10



JR 武蔵野線

JR Musashino Line

新小平駅

“Shinkodaira” Station

けやき歯科クリニック付近

Near Keyaki Dental Clinic

新小平駅発	
8時	15 45
9時	20
10時	00 30
11時	00 30
12時	30
13時	00 30
14時	00 30
15時	00
16時	00

平日(月～金曜日)のみ運行致します
土日祝日は運休となります

【お問い合わせ先】

国立精神・神経医療研究センター病院 広報室 ➡ TEL : 042-341-2711

NCNP
病院
診療科紹介

精神診療部



精神科地域医療への NCNP の役割



精神診療部長 野田 隆政

NCNP 精神診療部は、若手からベテランまで多くの医師が在籍し、臨床・研究・教育を3本柱として専門性の高い医療の提供や臨床に還元するための研究、医療技術の均てん化等を行っています。専門性の高い医療としては、クロザピンの導入、薬物依存への治療、睡眠障害への検査・治療、統合失調症への認知リハビリテーション、認知行動療法(CBT)、経頭蓋磁気刺激療法(rTMS)、電気けいれん療法(ECT)、脳画像関連の検査が挙げられます。最初にニューロモデュレーションをご紹介します。うつ病へのrTMSは保険診療として実施しており、保険診療以外にもrTMSによるうつ病寛解後の維持療法、双極性障害うつ状態へのrTMSの二つを先進医療Bとして実施しています。また、ECTは10

月に高出力(200%)機器を導入しました。高出力機器の導入により発作不発となるリスクが減り、治療効果を高めることが期待できます。他、特定臨床研究を含めて様々なニューロモデュレーションを提供しています。

また、クロザピンが治療抵抗性統合失調症へ高い効果を示すことは知られていますが、副作用への懸念や煩雑な手続きを要するため、全国的に導入は決して順調ではありません。東京都のクロザピン導入数の人口比は非常に少なく、都が難治性精神疾患地域支援構築事業によりオンデマンド研修を実施して啓発活動を行うとともに、専門的治療に関する相談窓口をNCNPに開設しています。これらの活動により東京都が抱える課題を解消することで普及が促



進され、クロザピンを必要とする統合失調症患者さんが治療にアクセスしやすくなります。NCNP 精神診療部は地域連携を強く押し進め、必要とされる精神科医療を提供して参ります。対象となる患者さんがいらっしゃればお問い合わせください。ようお願い申し上げます。

医療安全管理部

医療安全管理部長 中川 栄二

医療安全管理部の紹介

医療安全管理部は、医療安全管理室、院内感染対策室、新治療開発管理室で構成されています。医療安全管理室では、患者さんご家族はもちろん、面会の方々と職員を含めた院内全ての方の安全を守るために日々活動しています。「安全な医療」「質の高い医療」「わかりやすい医療」を提供することが医療安全管理部の目標です。院内で発生したインシデント、アクシデントの報告を収集、分析を行い、予防改善対策を推進し、医療事故の防止と安全、安心な医療の提供に努めています。感染管理室は、院内の感染制御のためにICT(感染対策チーム)、AST(抗菌薬適正使用支援チーム)の実働集団を中心に構成されています。安全で良質な感染対策の実践や適切な抗菌薬使用など質の高い医療を提供できるように、組織横断的に活動しています。新治療開発管理室は、院内における未承認新規医薬品等の臨床使用や、高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する申請を審議し、適正な手続きに基づいて実施されたかどうか、その遵守状況を確認する業務を担っています。



NCNP病院
各部門
紹介

臨床研究・教育研修部門

臨床研究・教育研修部門長 小牧 宏文

臨床研究・教育研修部門：臨床研究・治験、職員の教育を推進します



精神・神経疾患は治療法が限定的で、進行性の経過を示す場合も多く、臨床研究や治験を推進し新しい医療を開発していく必要があります。患者さんの安

全を守りながら研究を行うために様々な専門性を持った職員が研究を支援しています。医療の進歩に応じて病院職員は定期的に教育・研修を受ける必要があり、それらの企画、管理を担い、eラーニングや講演会などを企画運営しています。NCNP病院がこれまで以上に患者さんに信頼される病院なるように、またよりよい医療が提供できるように当部門は今後も活動を進めていきます。



薬物依存症センター

薬物依存症センター センター長
松本 俊彦

薬物依存症の治療を開発し、国内外に広げる



薬物依存症センターは、2017年より開設された専門疾病センターです。現在、精神保健研究所薬物依存研究部と、センター病院の精神診療部、臨床心理部、看護

部などと緊密に連携・協働し、自分たちが開発したプログラムを活用した治療を提供しています。また、薬物依存症の実態や治療に関する研究論文を発表する一方で、自身の専門知識や臨床経験を生かして翻訳や漫画の監修などを通じて情報発信を積極的に行っています。

なお、同センターは、厚生労働依存症治療・相談拠

点設置事業における薬物依存症全国拠点として、久里浜医療センターとともに依存症対策全国センターの運営も行っており、また、東京都薬物依存症治療拠点機関としての機能も担っています。



薬物依存症センターで開発した治療用教材



薬物依存症センターのメンバーによる翻訳・監訳・監修を介した情報発信

専門疾病センター

NCNP病院には現在12の専門疾病センターがあります。診療科や専門分野を超えたチームにより高度専門的医療を行います。

気分障害センター

多職種協働による気分障害患者のリカバリーの促進

気分障害センター（当センター）は、うつ病や双極症などを対象とする専門疾病センターです。その活動の中核である気分障害外来(写真)では、詳細なインタビューや心理検査などによる精緻な診断を行います。また、それにもとづく薬物選択や心理社会的アプローチなどの治療方針を検討します。以上により、患者さんの職場、学校や家庭への復帰など、社会的予後の向上を目指します。さらに、経過のフォローを行い、縦断的評価にもとづく予後予測や新たな治療法の開発につなげることを、多職種協働で取り組んでいます。

気分障害センター長
精神保健研究所 児童・予防精神医学研究部長
住吉 太幹



当センターの特徴として、日常生活機能と関連する神経心理学的な評価に力を入れており、統合失調症早期診断・治療センター等と協働する疾患横断的な活動も展開しています。また、海外の研究機関との複数の共同研究を実施あるいは予定しています。毎年開催される市民公開講座(R6年度は12月14日開催)では、気分障害に関する知識の普及と最新の知見の紹介を、専門家医師による講演を交えて行っています。



マイナ保険証について

財務経理部医事課
金子 照慶

従来の保険証は令和6年12月2日をもって廃止されることが決まっており、現在、政府はマイナ保険証への移行を進めています。

マイナ保険証を利用すると以下のようなメリットがあります。

- 医療機関を受診した際に、お薬の情報や健診結果の提供に同意すると、医師等からご自身の情報に基づいた総合的な診断や重複する投薬を回避した適切な処方を受けることができます。
- 高額な医療費が発生する場合でも、マイナバーカードを保険証等として使うことで、ご自身で高額な医療費を一時的に自己負担したり、役所で限度額適用認定証の書類申請手続きをする必要がなくなります。
- マイナポータルから保険医療を受けた記録が参照できるため、領収証を保管・提出する必要がなく、簡単に医療費控除申請の手続きができます。
- 就職・転職・引越後も新しい健康保険証等の発行を待たずに、医療機関・薬局で利用できます。

当院でもマイナ保険証の受付機を設置していますので、ぜひご利用ください。

また、今後、電子処方箋にも対応予定です。電子処方箋を利用すると下記のようなメリットがあ

ります。

- 「電子処方箋管理サービス」というシステムに登録された自身や家族が服用している薬の情報を、医師・薬剤師等がデータで確認できるようになり、お薬手帳を忘れてしまった場合でも曖昧な記憶に頼ることなく服用している薬を医師等に伝えることができます。
- 患者さんと看護にあたる家族の間での処方箋受け渡しや、薬局来局時に処方箋を忘れて自宅へ取りに戻るようなことがなくなります。また、薬局に行く際、事前に引換番号を伝えることで、薬局側は複数の薬を服用時点ごとにまとめて飲みやすくする一包化に前もって取りかかることができるなど、薬局での待ち時間短縮に繋がります。
- 医療機関・薬局から登録された処方・調剤情報をすぐに閲覧することができます。また、マイナポータルを通して患者自身が閲覧できる電子処方箋の処方・調剤情報を、アプリ上に表示することができる電子版お薬手帳アプリも登場しています。検索機能、服薬アラーム機能やアレルギー・副作用の情報記録機能と組み合わせることで、自分の健康管理に役立ちます。

患者さんの利便性向上のため今後も様々な取り組みを進めていきます。

NCNPプレスリリース (<https://www.ncnp.go.jp/topics/>)

- 日本希少疾患コンソーシアム(Rare Disease Consortium Japan:RDCJ)、会員募集を開始
- 多発性硬化症の難治化に関連する“異型”腸内細菌株の発見ー遺伝子伝播により獲得された病原性と治療・予防への意義ー
- デュシェンヌ型筋ジストロフィー治療薬(NS-050/NCNP-03)の米国における希少小児疾患指定のお知らせ
- 予測をうまくつかえない脳、自閉症の新たな発見

医療連携懇談会の開催について

医事専門職（医療連携係長併任）
木村 直

この度、医療連携懇談会を開催する運びとなりました。長らく新型コロナウイルス感染防止のため開催が見送られていましたが、ようやく直接お会いしてご挨拶する機会を設けることができました。日頃から当院の医療連携にご協力いただいている方々、ご支援いただいている方々と顔を合わせて忌憚のない意見交換ができる場となれば幸いです。ぜひ、皆さまのご参加を、心よりお待ちしております。

〈開催概要〉

令和6年11月13日(水)19:00～(18:30開場)

第一部 診療科の紹介(精神科、脳神経内科、脳神経小児科、脳神経外科)

第二部 懇談会 ※ささやかではありますが軽食等を用意しております

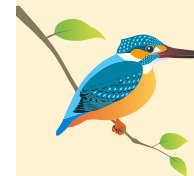
会 場: 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター ユニバーサルホール



※お申込みは既に終了しております。



Nature



NCNP四季便り

トランスレーショナル・メディカルセンター
永井 秀明

冬のタンポポ

センターでは冬になってもぽつりぽつりとタンポポが咲いています。

タンポポはもともと春にだけ咲く花でした。それなのになぜ冬に咲いているのでしょうか？

それはセンターのタンポポのほとんどが、二ホンタンポポとセイヨウタンポポの交雑種だからです。

セイヨウタンポポは一年中花を咲かせます。その性質を受け継いでいるのです。

冬のタンポポ。暖かい気持ちになりますね。

